



**ADVANTEST**<sup>®</sup>

# 2021年度（2022年3月期） 第3四半期決算説明会

2022年1月27日  
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

# ご注意

---

## 会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

## 将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

## 本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



```
...mirror_object = ...
operation == "MIRROR_X":
mirror_mod.use_x = True
mirror_mod.use_y = False
mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Y":
mirror_mod.use_x = False
mirror_mod.use_y = True
mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Z":
mirror_mod.use_x = False
mirror_mod.use_y = False
mirror_mod.use_z = True

selection at the end -add
obj.select= 1
mirror_ob.select=1
context.scene.objects.active
obj.name = "Selected" + str(modifier)
mirror_ob.select = 0
```

## 2021年度第3四半期決算報告

取締役 兼 経営執行役員  
CFO & CCO (Chief Financial Officer & Chief Compliance Officer)  
管理本部長 藤田 敦司

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

**ADVANTEST**<sup>®</sup>

## 四半期業績推移

(億円)

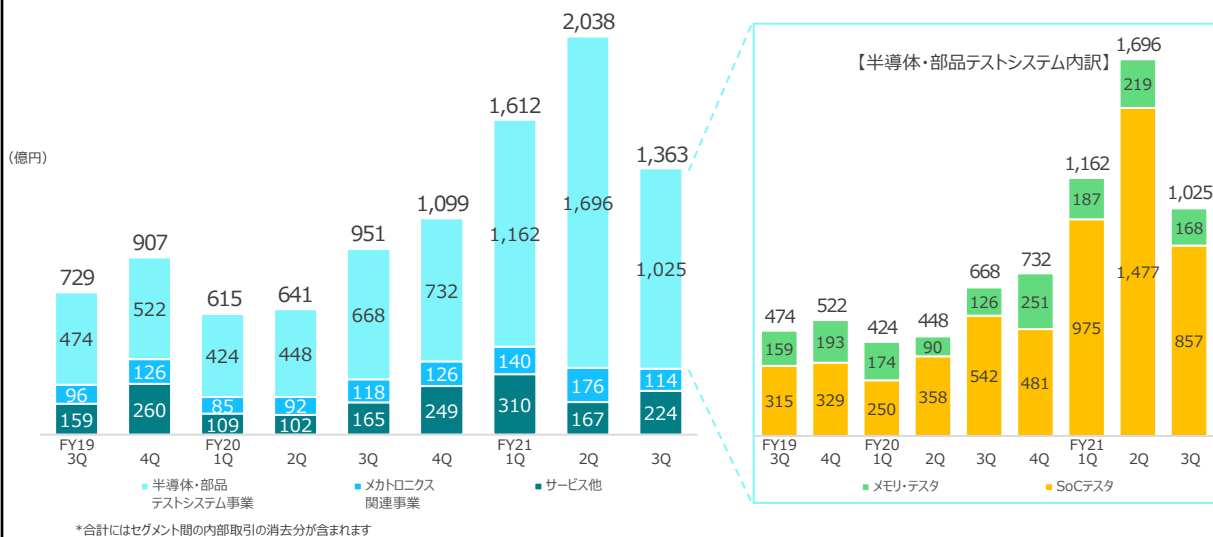
	FY20				FY21				前期比		前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	増減額	増減率	増減額	増減率	
	受注高	615	641	951	1,099	1,612	2,038	1,363	-675	-33.1%	+413	+43.4%
売上高	667	774	781	906	971	909	1,121	+212	+23.3%	+340	+43.6%	
売上総利益	380	416	402	485	547	501	648	+148	+29.7%	+247	+61.4%	
売上総利益率	56.9%	53.9%	51.5%	53.5%	56.4%	55.0%	57.9%	+2.9pts		+6.4pts		
営業利益	135	174	153	245	261	214	335	+122	+57.2%	+183	+2.2倍	
営業利益率	20.2%	22.6%	19.5%	27.1%	26.9%	23.5%	29.9%	+6.4pts		+10.4pts		
税引前四半期利益	129	164	139	264	257	216	340	+126	+58.3%	+202	+2.5倍	
四半期利益	106	139	120	333	193	159	257	+97	+61.3%	+136	+2.1倍	
四半期利益率	15.8%	18.0%	15.4%	36.7%	19.9%	17.5%	22.9%	+5.4pts		+7.5pts		
受注残*1	857	725	895	1,088	1,729	2,858	3,125	+267	+9.3%	+2,230	+3.5倍	
為替レート	1米ドル	108円	107円	105円	104円	109円	110円	112円	2円 円安		7円 円安	
	1ユーロ	118円	123円	124円	127円	131円	130円	130円	1円 円高		6円 円安	

\*1: FY21の3Qの受注残には、R&D Altanova社のM&Aに伴う移行注残24億円が含まれます

### ○ 2021年度第3四半期の業績概要

- 3Qの事業環境を振り返ります。
- これまでの数四半期と同様、3Qにおいても良好な事業環境が継続しました。
- データセンター投資の拡大、5Gスマートフォンの高機能化、微細化をはじめとする半導体の高性能化といった、テスト需要の水準切り上げにつながる流れを背景に、積極的なテスト投資がSoC半導体メーカー中心に行われました。
- 一方で、半導体不足は改善されておらず、半導体テストは大量の半導体を必要とする装置であることから、3Qも、生産面では厳しい局面が継続しました。
- しかし必要部材の確保に全社を挙げて取り組み、3か月前に見込んでいた社内想定以上の売上、利益を達成することができました。
- その結果、この3Qは、四半期開示を開始して以降、過去最高の売上高と営業利益となりました。
- 実績詳細は、以降のスライドで順次ご説明いたします。

## 四半期受注高 事業セグメント別



### ○ 2021年度第3四半期の受注高

- 2Qは、当社製品の長納期化を受けて、顧客が生産計画を長めに見直し、従来のリードタイムを超える需要時期の商談まで先行発注する動きが相次ぎました。
- 3Qも当社製品のリードタイムは短縮できてはいませんが、2Qに起きたような先行発注の動きはかなり落ち着きました。これが受注の前期比大幅減になったと分析しています。

### ○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前期比 39.5%減 1,025億円
- SoCテスタは、前期比620億円減の857億円でした。ただ右手グラフの通り、SoCテスタ需要はハイエンド向けを中心に、前年、前々年と比べ着実に伸びています。3か月前の社内想定も上回っての着地となっており、顧客の投資意欲は依然強いとみております。
- メモリ・テスタは、前期比50億円減の168億円でした。こちらは2Qまでしばらく強かったDRAM向け受注が一服したのですが、想定線での推移です。

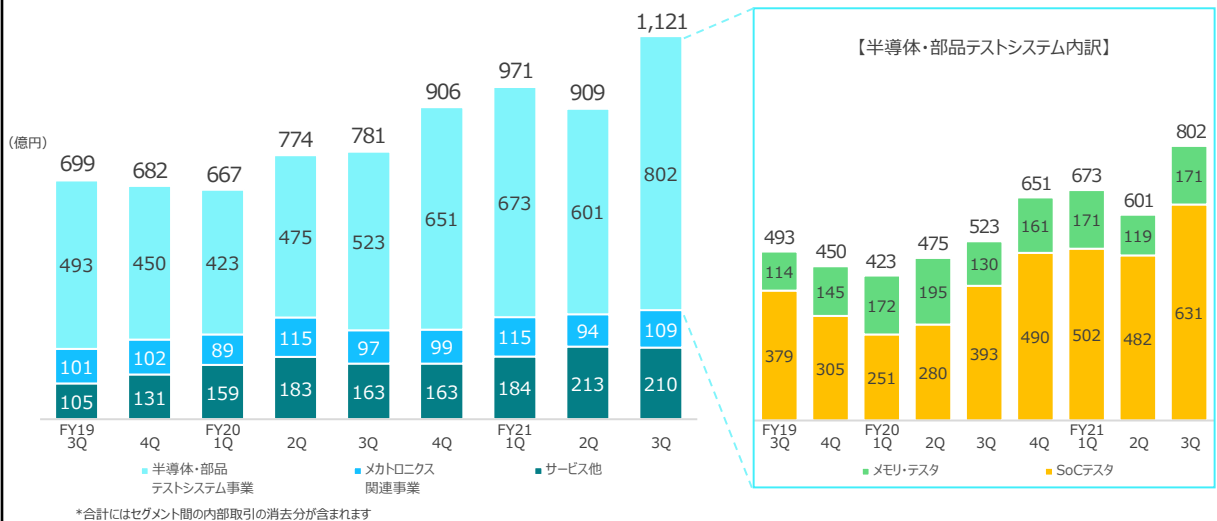
### ○ メカトロニクス関連事業

- 前期比35.3%減 114億円
- テスタ受注が減少する中、連動減となりました。

### ○ サービス他

- 前期比 34.8%増 224億円
- 保守の年間契約更新が進んだことに加え、システムレベルテストが堅調でした。

## 四半期売上高 事業セグメント別



### ○ 2021年度第3四半期の売上高

- ・ 部材不足は継続中ですが、社内計画を上回る売上進捗となりました。

### ○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・ 前期比 33.7%増 802億円
- ・ 内訳としては、SoCテストが631億円、メモリ・テストは171億円です。
- ・ SoCテストは、スマートフォンやサーバー関連のハイエンドSoC品向けを中心に、想定より売上を伸ばすことができました。
- ・ メモリ・テストはDRAM、不揮発性メモリともに全体としては堅調でした。ただし一部顧客で投資計画の見直しがあったことで、想定ほど伸びませんでした。

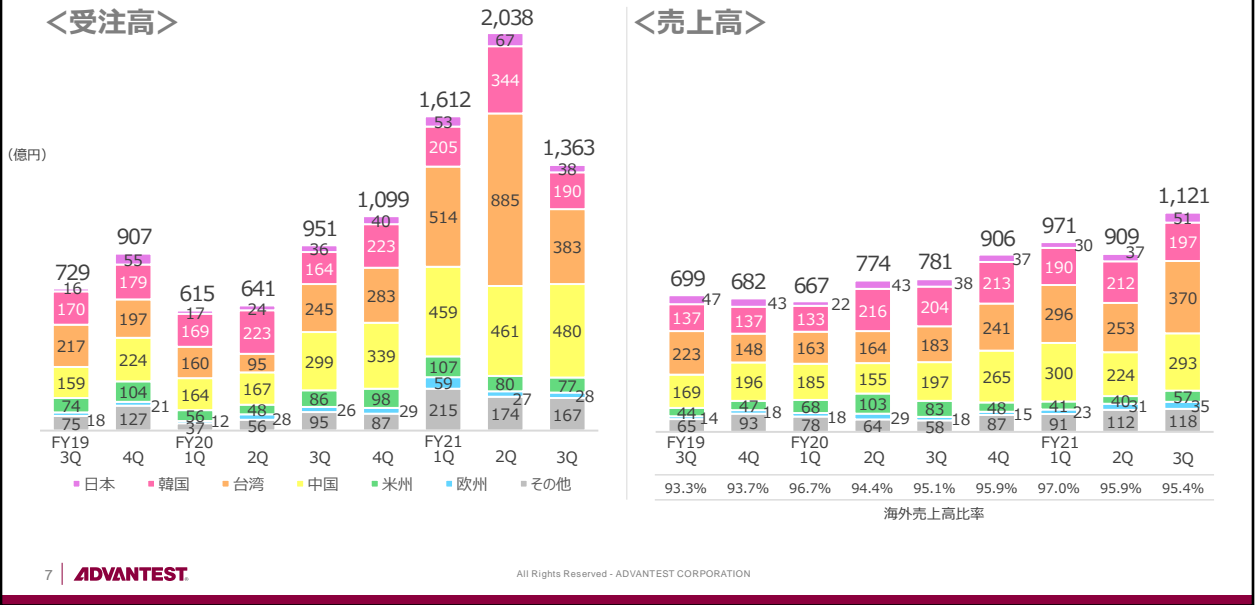
### ○ メカトロニクス関連事業

- ・ 前期比 14.9%増 109億円

### ○ サービス他

- ・ 前期並み 210億円

# 四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別



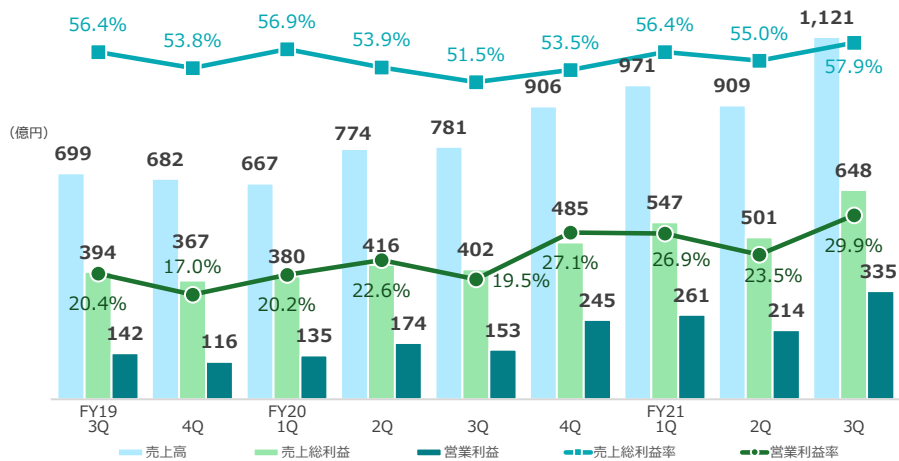
○ 2021年度第3四半期の地域別受注高

- 台湾、韓国  
リードタイム長期化に伴う先行発注が落ち着いたことで、反動減しました。
- 中国  
TVやスマートフォン向けのディスプレイ・ドライバーICの受注が3Qは好調でした。

○ 2021年度第3四半期の地域別売上高

- 韓国はやや減少していますが、全体として売上拡大基調にあります。

## 売上高/売上総利益/営業利益



### ○ 2021年度第3四半期の営業利益

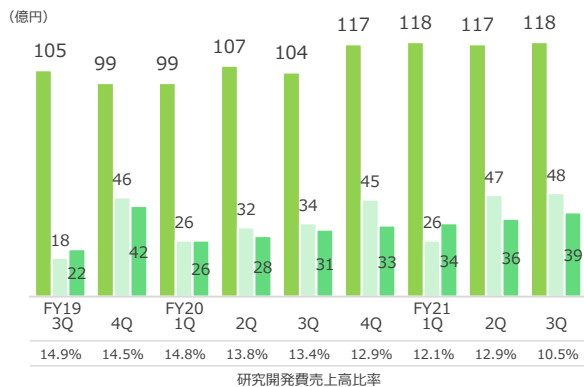
- 売上総利益率 57.9%  
製品の売上ミックスが好採算品にシフトしました。
- 販管費等（その他収益・費用を合算） 313億円  
増収に伴い、サポート費などがやや増加しました。
- 営業利益 335億円
- 営業利益率 29.9%



## 投資等/キャッシュ・フロー

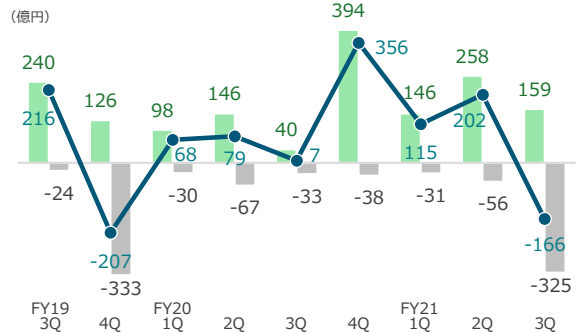
### <投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費



### <キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー



\*フリー・キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

### ○ 2021年度第3四半期の研究開発費等

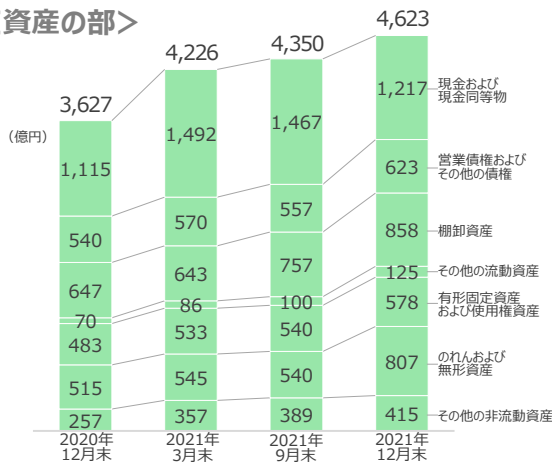
- 研究開発費 118億円
- 研究開発費売上高比率 10.5%
- 設備投資 48億円  
2Qより着手した米国製造拠点の拡張投資を、3Qも着実に実行しています。
- 減価償却費 39億円

### ○ 2021年度第3四半期のキャッシュ・フローの状況

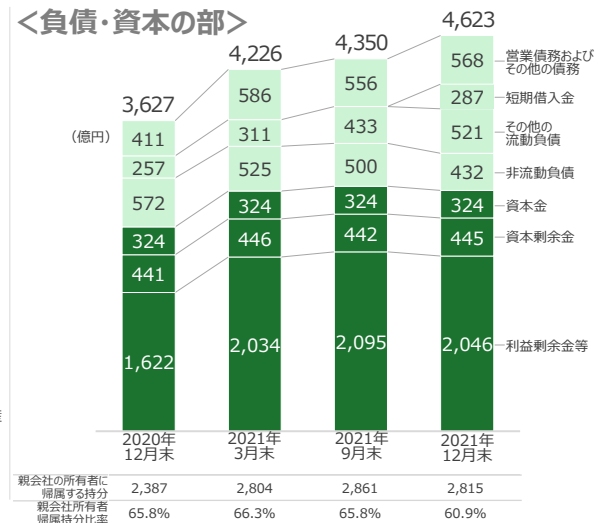
- フリー・キャッシュ・フロー -166億円
- 11月に米R&D Altanova社を買収したことにより、3Qは投資キャッシュフロー支出が大きくなり、フリー・キャッシュ・フローがマイナスとなりました。

## 連結財政状態

### <資産の部>



### <負債・資本の部>



### ○ 2021年12月末時点のバランス・シート

- 総資産 4,623億円
- 現金および現金同等物 1,217億円
- のれんおよび無形資産 前期比266億円増 807億円  
R&D Altanova社買収での増加です。ただし、現在は取得原価の配分作業中のため、暫定額となります。
- 短期借入金 287億円  
米国でR&D Altanova社の買収や生産拡大といった積極的な投資を継続しており、必要資金を外部から調達しました。
- 親会社の所有者に帰属する持分 2,815億円
- 親会社所有者帰属持分比率 前期比4.9ポイント減 60.9%
- 自社株買いの進捗については適時開示しているとおりでありますが、12月末までに取得した自己株式は468万株、457億円です。上限1,000万株に対しての進捗は47%、上限700億円に対しての進捗は65%です。



## 2021年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長（CEO）  
吉田 芳明

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

**ADVANTEST**<sup>®</sup>

## 半導体テスト市場の動向 <22年1月時点の見方>

### CY21実績（暫定）

- SoCテスト市場：ハイエンドSoCの高性能化や生産増、車載・産機・民生向けでの需要増を受け、前年比約40%拡大
- メモリ・テスト市場：3か月前の予想には届かないものの、大容量化の進展やDDR5 DRAM向け投資の開始により成長

### CY22予想

- SoCテスト市場：HPCなどの先端プロセス品の堅調な成長に加えて、車載・産機・民生向けも一段の伸びを予想
- メモリ・テスト市場：大容量化や高速化、広帯域化といったメモリの高性能化が引き続きテスト需要の拡大を促進

	CY20実績	CY21実績（暫定）	CY22推定
SoCテスト市場	約\$3.0B	約\$4.1B (10月時点推定:約\$4.1B)	約\$4.5B - 5.0B
メモリ・テスト市場	約\$1.2B	約\$1.3B (10月時点推定:約\$1.4B)	約\$1.4B - 1.5B

Source: Advantest

### ○ テスタ市場の見方

- 2021年の半導体テスト市場は、半導体の高性能化進展や生産量拡大を受け、非常に活況でした。暫定値ですが、2021年の半導体テスト市場は約5.4B米ドルと、前年比およそ30%伸びたと見込んでいます。
- 2022年のテスト市場については、当社のリードタイム状況など流動的な要素が多く、ビジビリティが低い状態ですが、SoCテストは2021年からさらに10%程度～20%強伸びると予想しています。
- 内訳については、車載・産機・民生向けで一段の需要増を見込んでいます。また先端プロセス品向けも、引き続き成長牽引役となる見通しです。過去10年間はスマートフォンのアプリケーション・プロセッサ（APU）が半導体高性能化の旗振り役でしたが、2022年は、ハイ・パフォーマンス・コンピューティング（HPC）用デバイスが主軸になると想定しています。
- 2022年のメモリ・テスト市場は、前年比10%弱から15%の成長を見込んでいます。大容量化や高速化、広帯域化といったメモリの高性能化が、テスト市場の拡大を促す流れです。
- 2023年以降の展望については、はっきり定量的に示せるものはまだありません。ただ、目下の深刻な半導体不足に一旦メドがついたとしても、半導体の構造的な需要拡大は続くと考えています。そしてさらなる微細化や先端パッケージ採用による半導体集積度の一層の向上は、より高度でより統合されたテスト・ソリューションを求めることにつながります。
- 今後も、テスト市場は、若干の調整の波はあっても中長期的に成長していくものと考えています。

## FY21業績予想

(億円)

	FY20	FY21					前年度比		(参考)新旧予想比較	
	実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q予想	通期予想	増減額	増減率	10月時点 FY21予想	修正額
受注高	3,306	1,612	2,038	1,363	1,487	6,500	+3,194	+96.6%	5,650	+850
売上高*1	3,128	971	909	1,121	1,099	4,100	+972	+31.1%	4,000	+100
営業利益	707	261	214	335	340	1,150	+443	+62.6%	1,050	+100
営業利益率	22.6%	26.9%	23.5%	29.9%	30.9%	28.0%	+5.4pts		26.3%	+1.7pts
税引前利益	696	257	216	340	337	1,150	+454	+65.2%	1,050	+100
当期利益	698	193	159	257	254	863	+165	+23.7%	788	+75
当期利益率	22.3%	19.9%	17.5%	22.9%	23.1%	21.0%	-1.3pts		19.7%	+1.3pts
受注残*2	1,088	1,729	2,858	3,125	3,512	3,512	+2,424	+3.2倍	2,738	+774
研究開発費	427	118	117	118	127	480	+53	+12.4%	480	-
設備投資	137	26	47	48	119	240	+103	+75.2%	240	-
減価償却費	118	34	36	39	41	150	+32	+27.1%	145	+5
為替レート*3	1米ドル 1ユーロ	106円 123円	109円 131円	110円 131円	112円 130円	115円 131円	6円 円安 8円 円安		110円 133円	2円 円安 2円 円高

\*1:合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

\*2:FY21の3Qの受注残には、R&D Altanova社のM&Aに伴う移行注残24億円が含まれます

\*3:為替レート変動が今年度の営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時+10億円です。対ユーロは-1.5億円です

13 | ADVANTEST

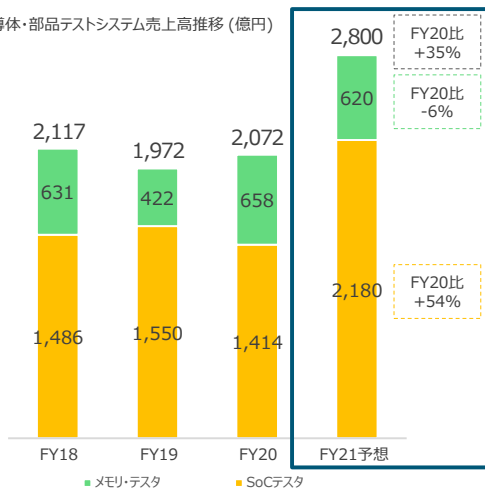
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

### ○ 2021年度の業績予想

- 3Qまでの実績と4Qの見通しを踏まえ、通期予想を上方修正します。受注高は850億円増額の6,500億円、売上高、営業利益はそれぞれ100億円増額の、4,100億円、1,150億円、当期利益は75億円増額の863億円を予想しています。
- 現在のわれわれの優先課題は部材調達で、楽観できない状況が続いています。突然の入荷遅れ発生などもあり得る環境であり、4Q売上計画達成にあたってはリスク無しとはしません。部材の確保に取り組み、売上、当期利益ともに2年連続の年度最高記録更新を見込みます。
- 売上総利益率は、下期の製品ミックスが3か月前よりも好転している方向であることから、通期で57%程度を想定しています。4Qの販管費は3Q並みか微減の想定です。
- 4Qの予想の前提とした為替レートは、米ドル115円、ユーロが130円です。
- 為替レート変動が今年度の営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時+10億円です。対ユーロは-1.5億円です。
- なお昨年11月のリリース通り、当社はR&D Altanova社を買収し、3Qの途中から連結開始しています。ただ当連結会計年度の業績に与える影響は軽微な見通しです。

## FY21見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム売上高推移（億円）



### 半導体・部品テストシステム事業

#### <SoCテスト>（10月予想比 +160億円）

- APUやHPCなどの先端プロセス品における需要の伸びがFY21の業績を牽引
- 自動車向けや産業機器・ディスプレイ関連などでも、旺盛な需要は継続

#### <メモリ・テスト>（10月予想比 -100億円）

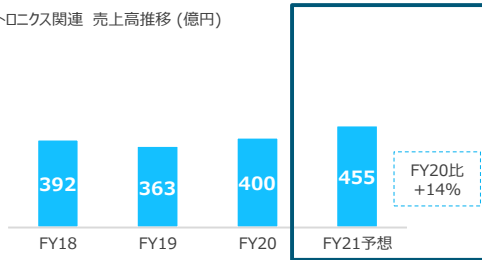
- メモリ大容量化・高速化を背景に、DRAM高速試験向け、不揮発性メモリ向けなどの受注は底堅く推移
- 一部顧客の投資計画見直しを受け、通期売上予想を減額

### ○ 半導体・部品テストシステム事業の今期見通し

- SoCテストの2021年度通期売上予想は、10月の見通しから160億円引き上げ、2,180億円とします。
- APU、HPCなどで、微細化に伴うテストの複雑化を背景に、力強いテスト需要が継続しています。
- 自動車や産業機器、ディスプレイ関連などでも、顧客の投資意欲は高止まりしており、SoCテストに対する強い引き合いが続いています。
- メモリ・テストの2021年度通期売上予想は、10月の見通しから100億円引き下げ、620億円とします。
- 受注実績で見える通り、次世代DRAMであるDDR5向けの需要や、不揮発性メモリ向けの需要は全体としては底堅いですが、一部顧客で下期の投資計画が見直しされたことを受け、当社の通期売上予想を見直します。

## FY21見通し（事業別）

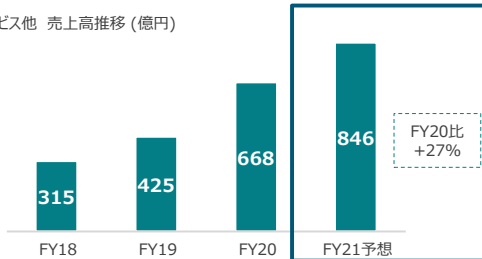
メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



### メカトロニクス関連事業（10月予想比 -25億円）

- テスタ需要と連動し、デバイス・インタフェースやテスト・ハンドラの需要が堅調
- 一部メモリ商談の変動を受け、通期売上予想を見直し

サービス他 売上高推移（億円）



### サービス他事業（10月予想比 +66億円）

- ハイエンドSoCの数量増・さらなる高性能化を背景に、システムレベルテスト事業が3か月前の想定を超えて伸長
- 当社製品の設置台数の着実な伸びを背景に、保守サービスも順調

### ○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- ・ メカトロニクス関連事業の通期売上予想は、455億円と、前回の予想から若干引き下げます。
- ・ サービス他事業については、売上予想を66億円引き上げ、846億円とします。
- ・ システムレベルテスト事業は、現状ハイエンドSoC向けがメインです。SoCテスト同様、その領域のテスト需要が想定以上に伸びていることから、通期の予想を引き上げるものです。
- ・ システムレベルテスト事業においては、積極的なM&Aや機動的な設備投資により、リカーリング収益の売上構成比を高めるアプローチもしています。引き続き、事業拡大施策を着実に実行し、収益基盤の多様化を進めてまいります。

## サマリー

- 半導体市場の成長と半導体の高性能化が続く中、試験装置に対する需要拡大も継続
- 部材調達安定化により顧客の旺盛な投資意欲への追従力を向上し、最高業績更新を目指す
- 中長期の事業成長とレジリエンス強化に向けた施策を着実に実行、収益基盤の多様化を推進
- 事業規模が急拡大する中、ESGや働き方改革などの社会変容に対応し、内部管理体制を強化
- 引き続き以下のリスクに留意しつつ、中計目標の早期達成に邁進
  - ① サプライチェーンの目詰まりによる部材調達難、物流の逼迫
  - ② 期待される世界経済回復の遅れによる需要減退
  - ③ 米中対立や経済安全保障政策がもたらす半導体産業への影響

### ○ サマリー

- テスタ市場にとり非常に力強い年となった2021年が終わりましたが、どの半導体メーカーとの商談においても、需要が減少に向かう気配は今のところありません。
- 半導体市場や最終機器市場の方向性からも、半導体の高性能化や信頼性強化に向けたテスト能力増強投資は、2022年も好調が持続する見通しです。
- 顧客の旺盛な投資意欲に応えるために、部材調達の安定化に第一優先で引き続き取り組みます。
- そして今後当社の持続的な事業機会拡大が見込まれる中、中長期の事業成長とレジリエンス強化に向けた施策を着実に推進していきます。
- 当社の売上高は2017年から4年でほぼ倍となります。事業規模の拡大に合わせ、内部管理体制の強化を着実に進める必要があると考えています。新型コロナウイルスによる働き方や生活の変容、ESGに関する資本市場や社会の変化などに対応し、オペレーショナル・エクセレンスの向上を図ります。
- 最後に、需要好調ではありますが、全員が大丈夫と思う時ほど落とし穴はあるものです。
  - ① サプライチェーンの目詰まりによる部材調達難や、物流の逼迫
  - ② 期待される世界経済の回復の遅れによる需要減少懸念
  - ③ 米中対立や経済安全保障政策がもたらす半導体産業への影響、あるいは最近のウクライナなどでの地政学的リスクこれらに十分留意しつつ、中計目標の早期達成に邁進してまいります。
- 私からの説明は以上です。